

指定種別・名称 史跡・見沼通船堀
 指定年月日 昭和57年7月3日
 所在地 埼玉県さいたま市緑区大字大間木・下山口新田

見沼通船堀はさいたま市の南部に位置しています。享保16年(1731)東西の代用水路と芝川を結んでつくられ、東西2カ所ずつの関を設けました。3メートルの水位差を調節して船を通すという、我が国有数の古さの閘門式運河です。

江戸時代中期の土木技術や、流通経済を知る上で貴重な史跡として、昭和57年7月3日に国指定史跡になりました。また、平成14年12月19日には、通船に携った船頭たちの信仰を集めた水神社と木曾呂の富士塚(川口市)も史跡に追加指定されました。

■見沼溜井と新田

かつてさいたま市の東郊に見沼という大きな沼がありました。江戸時代初期の寛永6年(1629)、関東郡代伊奈忠治はこれを、灌漑用水池として造成することになりました。忠治は八丁(約900メートル)の堤を築き、見沼を溜井としました。現在この堤上を県道吉場・安行・東京線が通っています。

伊奈氏は主に河川の改修や用水池造成、溜井方式の灌漑を行いました。それは上流地域の排水を溜井に集め、この水を下流で使い、またその排水を集めて溜井とする方法です。見沼もその溜井の一つで、伊奈流とか関東流と呼んでいます。この堤によってできた溜井の面積は、1200ヘクタールもあります。この溜井の完成によって八丁堤より南の地域では開発が進められましたが、反面、見沼沿岸の地域では水没田ができるなど弊害でもありました。

やがて、八代將軍徳川吉宗の時代になると、幕府財政再建のために新田開発を進めました。これに伴い、見沼も新田化されることになり、井沢弥惣兵衛為永がこれにあたりました。享保12年(1727)の秋に着手し、まず八丁堤を切って見沼の水を排し、現在の芝川をつくりました。排水が完了した旧溜井は、新田に造成されました。為永はこの新田をうるおすため、利根川から水を引くことにしました。現在の行田市下中条から利根川の水を引き入れ、延々60キロメートルにわたって用水路がつけられました。こ

の用水路は在来の見沼に代わる用水路という意味で見沼代用水路と呼ばれました。

見沼代用水路から引いた水は新田で使用され、芝川に排水されます。このように用水と排水を分離する方法を紀州流と呼んでいます。

見沼の干拓、新田の造成、それに東西の代用水路は着手してから半年後の享保13年(1728)の春に完成しました。

次に、代用水路沿いの村々と江戸とを結ぶことを考えた為永は、代用水路と芝川とを結ぶ運河をつくることにしました。享保16年(1731)、東西の代用水路と芝川が最も近い八丁堤付近を開削し、見沼通船堀をつくりました。

通船堀は東縁側と西縁側とに分かれ、東縁側が約390メートル、西縁側が約650メートルあります。

代用水路と芝川の水位差が3メートルもあったため、ここに東西2カ所ずつの関を設け、水位を調節し、船を上下させることにしました。

■通船堀のしくみ

見沼通船堀の特徴は、上下2カ所の関を利用した閘門式の施設を持つという土木技術の高さにあります。

閘門は水位差の大きいところに関をつくって水位を調節し、船を通す施設のことです。閘門的な施設を備えた運河としては、我が国有数の古さのもので、技術的にもすぐれています。

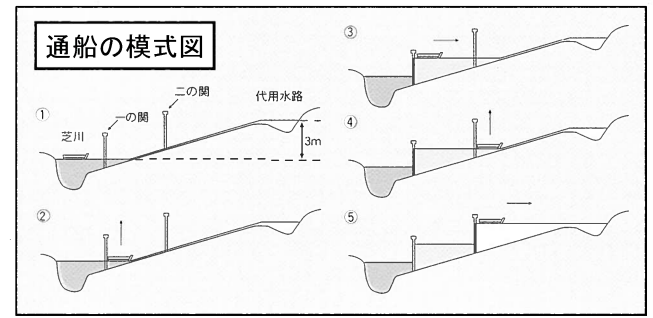
世界的にその例をみると、中国で1284年に閘門を用いた大運河がつけられたといわれ、15世紀にはイタリアやドイツなどでもつけられました。

■閘門の構造

東西の通船堀には、それぞれ2つの関があり、その間を閘室としています。これが閘門式運河と呼ばれる理由です。この4つの関は、だいたい同じ寸法です。関の見取図は表紙に示したようになり、板張りの全長は5間半から6間半(約9.9~11.7メートル)あり、底面には太い松材を使用しました。また、底張りの幅はせまいところで9尺(約273センチ)です。



復元された通船堀東縁閘門(一の関)



側面の高さは大体12尺(約364センチ)で、関枠がつくれ、これを鳥居柱といいケヤキの角材を用いています。この門に板を付けたりはずしたりして水位を調節します。この板を角落板といい、幅6寸(約18センチ)、長さ11尺(約333センチ)、厚さ2寸(約6センチ)の長い板です。

■通船のしかた

江戸から荷物を積んだ船は隅田川から荒川をさかのぼり、芝川に入ります。船が八丁河岸につくと、船頭は船をつないで、近所の人々に声をかけ、これに応じて20人ぐらいの人が土手から綱を引いて一の関まできます。一の関では勢いよく流れ出る水の上をいっしょに引き上げ通過します。すると「杵抜き」の人が角落板を入れはじめます。10枚ぐらい入れると、水位が十分に上がり、船は二の関まで引かれます。この関でも一の関と同じようにして船を引きあげ、水位があがると船は代用水路まで引かれて通船が終わります。

代用水路から芝川へ船が下る場合は、これらと逆の手順で行います。船が関に着くと、角落板が一枚ずつはずされて、落差を少なくして通過します。

このように、見沼通船堀に船を通すのには大勢の人々と、手馴れた船頭さんの力が必要でした。



東縁一の関 開閉のようす